

平成26年度全国家庭教育支援研究協議会

「別府市家庭訪問型アウトリーチ支援事業」

平成27年1月27日（火）・28日（水）
国立オリンピック記念青少年総合センター

別府市総合教育センター
所 長 猪俣 正七郎
指導主事 宮川 久寿

I 別府市の概要

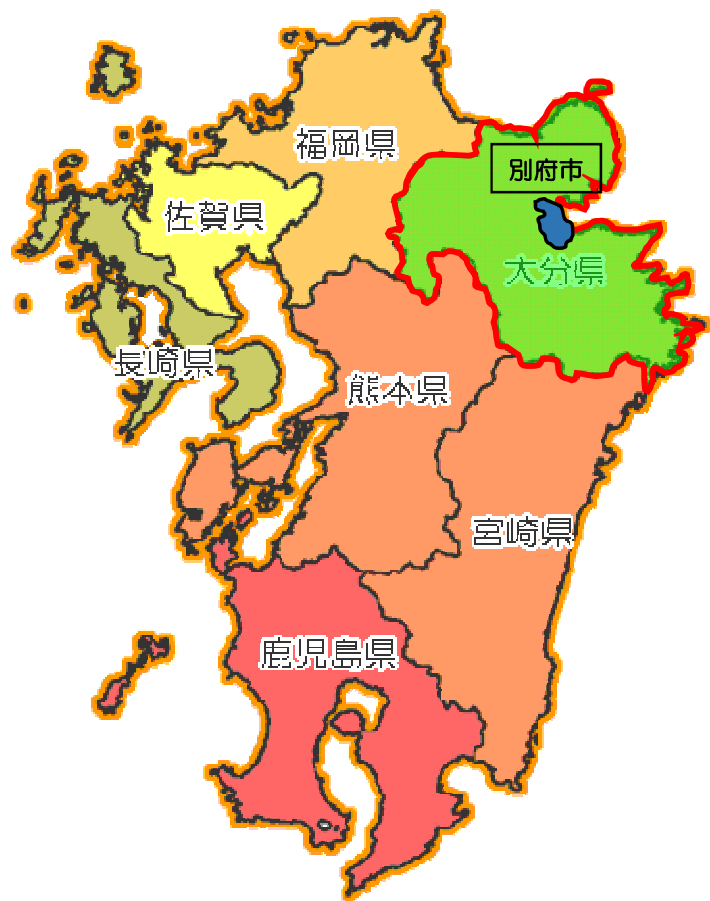
II 本事業の概要

III 本事業の実際

IV 本年度の成果及び課題

I 別府市の概要

国際観光温泉文化都市 別府市



- 大分県のほぼ中央に位置し、日本を代表する温泉観光地。
- 人口は約12万人 男：約5万5千人
女：約6万5千人
- 市内の3つの大学に2,926人の留学生在籍（別府市人口の約40人に1人） ※平成26年5月1日現在

公立小中学校数及び児童生徒数 平成26年5月1日現在

	学校数	児童生徒数
小学校	15校	5,211人
中学校	8校	2,696人

就学援助受給率 各年度5月1日現在

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
小学校	15.8%	17.1%	17.3%
中学校	19.2%	20.0%	22.2%

別府市の家庭教育をめぐる現状と課題

- 一人親家庭
- 子育てにかかわりが薄いと思われる保護者
- 夜間に保護者が不在の家庭
- 地域から孤立して、つながりが持てない家庭
- 家庭教育の重要性を認識できていない保護者

家庭の
養育能
力が不
十分

- 基本的な生活習慣の未定着
- 家庭学習時間の不足

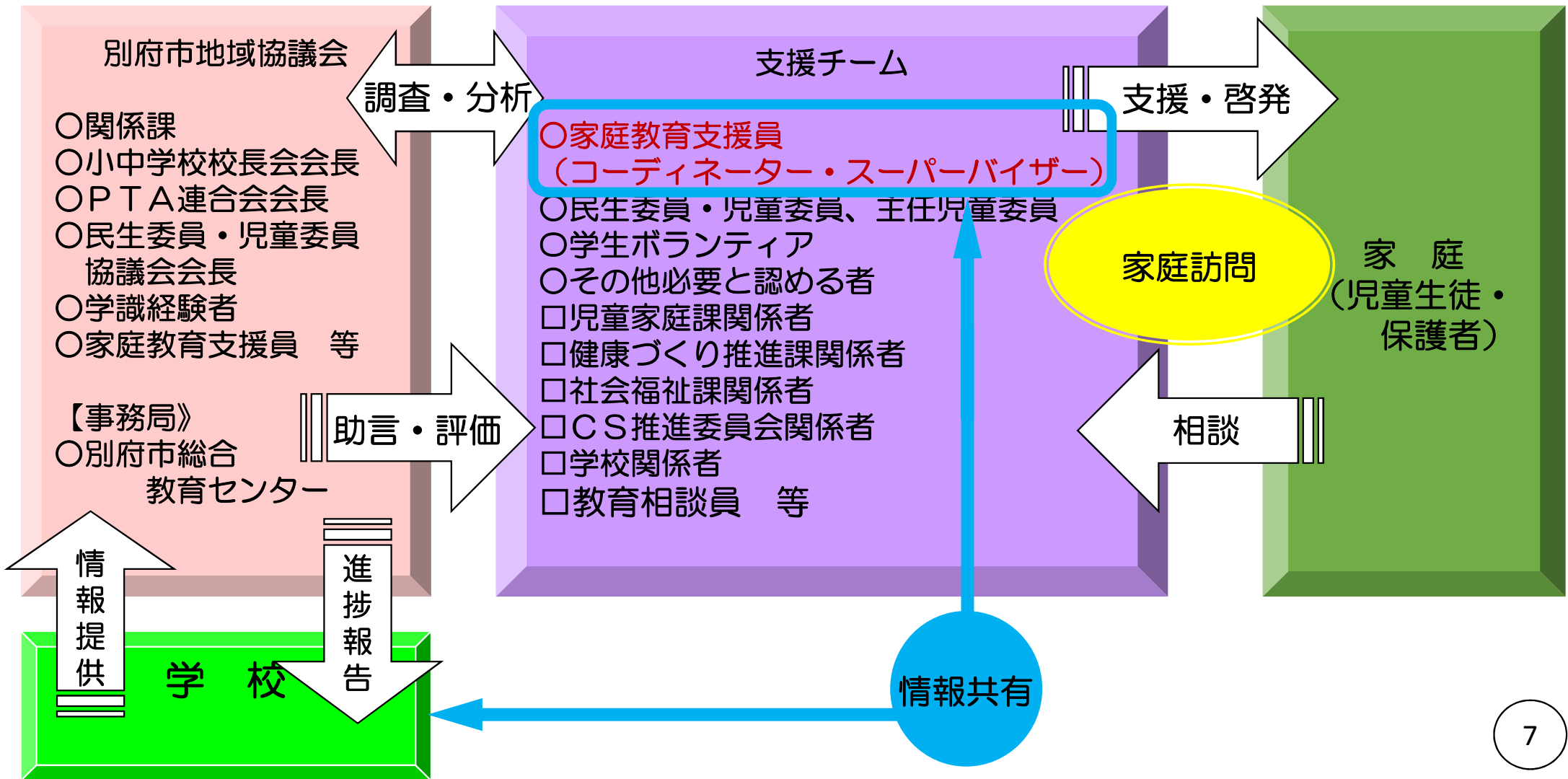
- 児童生徒の学力の低下
- 不登校や問題行動等の増加

Ⅱ 本事業の概要

目的

本事業は、「保護者の養育能力及び不規則な生活」「児童生徒の特性及び学力不振」等により不登校となり、家庭にひきこもっている児童生徒の家庭に対して、相談体制の充実や情報、学習機会の提供等、学校や関係機関と連携しながらきめ細かな家庭教育支援を行うことにより、家庭教育を支えていく基盤の形成を促進し、別府市の教育課題の一つである不登校の解消に資することを目的とする。

支援体制（組織）



各種会議・研修等

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
別府市地域協議会	○		○		○		○		○
支援チーム会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○
訪問型支援	定期的・継続的に実施								
研修会		○		○		○		○	

期待される効果

家庭としては…

- 保護者の心が安定する
- 望ましい親子関係が築かれる

地域としては…

- 家庭や子どもを見守る体制が構築される

学校としては…

- 保護者の状況が把握できる
- いじめや不登校、児童虐待等の未然防止、早期発見につながる
- 教育支援室への通級につながる
- 学校生活への復帰につながる

Ⅲ 本事業の実際

1 支援体制

支援内容

- 児童生徒・・・生活習慣の観察・改善
学習支援、外出支援、登校支援
- 保護者等・・・家庭教育支援員による支援・啓発
- 家庭・・・民生委員・児童委員や主任児童委員等による見守り

実施体制

○家庭教育支援員（コーディネーター・スーパーバイザー） 配置

—コーディネーター・スーパーバイザーの業務—

- 別府市地域協議会の開催準備
- 支援チームの編成
- 支援チームに対する指導や支援
- 必要に応じて支援チーム会議のコーディネート
- 支援チームの一員としての家庭訪問
- 各学校や関係機関等との打ち合わせ
- 年度末報告書の作成 等

対象児童生徒

1月現在、5名の児童生徒を対象

- 小学校：第2学年女子 第3学年女子 第5学年女子
- 中学校：第1学年男子 第3学年男子

2 具体的な事例

【A（小2：女子）のケース】

- 家族構成：父、母、姉（高1）、A
- 支援内容：Aのもつこだわりを理解し、Aとの良好な人間関係づくりをする 学習の遅れを支援する
- 支援場所：児童自宅
- 支援者：学生（男性）、学生（女性）、家庭教育支援員
- 支援方法：学生による学習支援、家庭教育支援員による保護者への支援、地域からの見守り
- 支援回数：毎週1回

• 本年度4月～12月の登校及び欠席日数

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	計
登校日数	6	1	1	0	0	4	7	8	27
欠席日数	10	19	20	14	20	18	11	8	120

具体的な支援内容と子どもと保護者の変容

Aの場合

計画的・積極的に登校し始める

学生がAのこだわりを認めつつ、学習や遊びの中で他人とかかわることの楽しさを味わわせる

A

- 母親への強い依存
- 友人とのトラブル
- 強いこだわり

母親の場合

責任感が強くなり、Aの登校を前向きにとらえ始める

家庭教育支援員が母親の困りや悩みを聞き、Aとの接し方等について助言する

母 親

- ・心が不安定
- ・家庭教育力が低い
- ・登校に対する意識が低い

【B（中3：男子）のケース】

- 家族構成：母、B
- 支援内容：Bとの関係づくりをする 生活リズムの改善に向けた支援を行う 学習支援をする
- 支援場所：生徒自宅
- 支援者：学生（男性）、家庭教育支援員
- 支援方法：学習支援、地域からの見守り
- 支援回数：毎週1回

- 本年度4月～12月の登校及び欠席日数

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	計
登校日数	5	1	4	1	6	7	7	3	34
欠席日数	12	19	17	14	14	15	11	15	109

具体的な支援内容と子どもと保護者の変容

登校意欲が高まるとともに、
進学の意味が固まる

学生が学習支援を丁寧に行い、
学習に対する抵抗感を下げる

B

- 学力不振
- 進路が定まらない
- 昼夜逆転傾向

3 他組織や関係機関との連携

○学校との連携

- ・ 情報提供、情報共有
- ・ 校内での窓口を一本化

○福祉関係との連携

- ・ 別府市地域協議会で支援チームへの助言・評価
- ・ 別府市要保護児童対策地域協議会における情報共有

○大学との連携

- ・ 学生ボランティアの募集

○地域住民やNPOとの連携

- 民生委員・児童委員地区長会議や主任児童委員部会で本事業の趣旨説明及び協力依頼
- 地域子育て支援センター「にじのひろば」に協力依頼

○コミュニティスクールにおける学校運営協議会との連携 推進

- コミュニティスクール推進委員会（H27より一部学校運営協議会）の委員に対して、本事業の趣旨説明及び協力依頼

IV 本年度の成果及び課題

成果

- 児童生徒がさまざまなことに対し前向き、意欲的になり始め、登校日数が増えてきたこと
- 保護者の心が安定し、子どもとのかかわり方を改善しようとする気持ちが出てきたこと
- 民生委員・児童委員と学生とが情報を共有することで、家庭を地域で積極的に支えようとする意識が強くなってきたこと

課題

- 保護者及び本人の了解が得られない家庭を支援するための体制づくり
- 地域人材を効果的に生かすための支援チームづくり
- 教育委員会と福祉部局（児童家庭課・社会福祉課・健康づくり推進課）との効果的な連携の在り方

ご清聴ありがとうございました